

(5) 事故再発防止に向けた新たな取り組み

安全研究所の設置について

〔安全諮問委員からの主なご意見〕

- ・今までのように、鉄道総研などの部外組織に多くの研究開発を任せる方針を変え、自社のニーズに合った独自の研究所を社内に持つべきである。JR西日本の安全の取り組みに基づいた、ヒューマンファクターに特化した研究所が良いのではないかと。
- ・社内に専門家集団を持つことは大切であり、その際には役割と権限をはっきりさせることが重要であるとする。
- ・日本には安全工学科などはなく、安全学というものがまだしっかりと根付いていないが、今こそ必要な組織である。
- ・ニーズがあってつくるのはすばらしいことである。航空分野では、総合安全推進委員会として社長直属の組織としてつくったことにより、安全施策が大変進んだ経緯がある。

安全諮問委員会としての提言事項

自社のニーズに合った独自の組織として、役割と権限を明確にした研究所を社内につくること。

〔提言に対するJR西日本の実施・検討状況〕

- ・鉄道の安全性を高めるためのマネジメントの仕組みやヒューマンファクター及び保安システムの面からの安全性向上に役立つ研究に取り組む「安全研究所」を、他部室から独立した組織として、平成18年6月23日に設立。

事故資料展示施設について

〔安全諮問委員からの主なご意見〕

- ・事故の怖さを実感させることは鉄道だけではなく大切なことであり、最近はマイナス面も残していこうという流れもあるが、事故の記録を後世に伝えることは教育以上に必要なことと考えている。失敗の科学など、是非、事故の怖さを実感させることを考えてほしい。
- ・JR東日本やANA、JALも風化防止対策を考えている。負の遺産の伝承は是非考えてほしい。

安全諮問委員会としての提言事項

事故を風化させず、安全教育にも活かすことができる、事故の記録を後世に伝える施設を社内に設置すること。

〔提言に対するJR西日本の実施・検討状況〕

- ・第3回安全諮問委員会(平成17年11月2日)において、過去の事故についての記録やパネルなどを整備し、教育・訓練に活用していく方向性について報告。
- ・福知山線列車事故の風化防止、および安全教育の原点として活用することを目的とした事故資料展示施設を社員研修センター(吹田市)内に設置することを決定。(平成19年4月開設予定)